

杉並ユネスコ協会会報

148号

2023年
3月7日

Suginami UNESCO Association News Letter

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

ユネスコ憲章前文より

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



杉並ユネスコ協会

目次

特集「祈りの平和」から「平和の創造」へ.....2	新年会・科学教室・平和のためのポスターコンクール...6
ユネスコのつどい.....4	中学生クラブ.....7
料理教室.....5	日本ユネスコ運動全国大会・活動予定.....8

平和を創る。



「祈りの平和」から、「平和の創出」へ。

青年部 西野 月

平和とは何だろう？

「平和」の対義語は「戦争」であると、多くの人は思うでしょう。日本は第二次世界大戦後、「あのような悲惨な戦争は二度と繰り返してはならない」という強い願いから、先人達が平和を築いてきてくれました。しかし、もはや戦争のない状態が平和であるとは言えない時代です。「自分ごと」と言われても、なかなか人の心に響かない今、平和とは何なのか、私達は何をすればよいのか、改めて考えてみたいと思います。

政策の手段である「戦争」のイメージは、戦車や破壊された町などリアルに思い浮かべることができます。一方、「平和」は状態を表す言葉なので、曖昧です。鳩や地球など抽象的なイメージに終始してしまうのはある意味、仕方がないことなのかもしれません。そこで、現代の平和はもっと日常の些細な幸せの中に見出すことができるのではないかと、少し視点を変えてみることにしました。

きっかけとなったのは、時折 SNS で目につく投稿でした。ウクライナやミャンマーなど戦禍にある人達が、幸せそうな家族団欒や子どもの笑顔画像と共に、「私達はこのために戦っている」というメッセージを発信していたのです。戦争は国を単位とした大きな規模ですが、国民一人ひとりにとっては、日常を守るための戦いなのだ、はっとさせられました。

昨年末に観た

映画「ラーグリより愛をシベリアの強制収容所での実話ですが、これも何気ない家族との日常の尊さが強いメッセージで描かれた作品でした。しかも、ストーリーが私の曾祖父一家が体験した話と酷似していたこともあり、より深く心に響いたのです。平和の礎は「小さな幸せ」にこそあり、それは時を経ても変わらないものでした。

幸せ感じる心を育てる

日々の幸せと言っても、それどころではないという意見もあるかもしれませんが、でも、少し立ち止まってみると、別の景色が見えてきます。

以前、カンボジアで出会った子ども達は、とても貧しい状況にながらも、夜間の寺子屋での学びを心から楽しんでいました。今でも彼らのキラキラした瞳が思い浮かびます。果たして、私は嫌々ながら勉強してはいないでしょうか。自分の将来のため、未来のためにと考えているでしょうかと、恵まれた環境にいるはずの自分を情けなく思った苦い経験です。

ここで、国連が発表している世界の人々の充足感をランキングした「世界幸福度レポート2022」を見てみると、日本は146カ国中54位。先進国の中では最下位です。また、別調査の自殺死亡率では、先進7カ国の中で日本はトップに位置し、悲しいことに命を絶った小中高生の数は2016年以降増加しているそうです(※1)。経済的な豊かさや心の豊かさは、必ずしも結びつくわけではないと痛感します。

また、黒柳徹子さんは著書の中で、飢餓や災害、貧困に苦しむ国々では自殺をした子が一人もいなかったことに衝撃を受けたと綴っています(※2)。両親を目の前で殺された子、腕や足を切り取られた子、家族を養うために売春する子。難民キャンプは私達の住む日本とはかけ離れた環境です。しかし、あちこち聞き歩いてみても自殺をした子一人も見つからず、「日本では子どもが自殺してるんです」と大声で叫びたかったといます。世界3位の経済大国でありながら、幸福や豊かさとはいったい何なのでしょう。日本人は真面目で感情を表に出にくい国民性ゆえ、幸せを見つけることが上手ではないように思えますが、幸せを感じられる心の豊かさを日常で心掛けることが私達にとって大切なのかもしれません。

(※1) 厚生労働省「令和4年版自殺対策白書」自殺死亡率とは、人口10万人当たりの自殺者数。
(※2) 「トットちゃんとトットちゃんたち」講談社

社会に関心を

自分の周りの幸せを感じることができたら、次は社会の問題を自分のこととして捉えるようにしたいです。

今まで私が知り合った世界中の友人達は、自国の歴史や政治についてきちんと関心を持ち、自分ごととして問題意識を持っていました。彼らは常に自分の意見を真正面からぶつけてくるので、こちらはいつもタジタジ。聞けば、小中学生の頃から授業で歴史や政治、社会問題について話し合う時間が多いといいます。日本では歴史を過去の出来事として暗記しますが、彼らは「あの戦争は必要だったのか」など徹底的に意見をぶつけ合う中で、必然的に政治や社会への関心が広がっていくようです。結果的に、意識の中で遠い過去の歴史も現在と繋がり、自分達の未来のためにと、社会への関心が深まっているのです。確かに、一方通行のレクチャーは次のステップの行動には繋がりにくいですし、日本はそこがネックなのかもしれません。自分との繋がりを実感できてはじめて自分ごとになると学びました。

最近では、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー価格の高騰、食料の値上げなど私達の暮らしも大きな打撃を受けたことで、思いもよらず「私達が生きる日常と戦争は地続きだ」と気づかされました。同様に、環境問題、貧困、ジェンダー、教育格差... 社会の課題は、全て根っこで一人ひとりの日常に繋がっているのですね。社会への関心が未来を創る第一歩となることは確かです。

未来のために

未来の平和を創っていくためには、私達一人ひとりが身近なところから社会に興味を持ち、関わる機会を増やしていくきっかけ作りも必要だと思います。本来、社会問題は私達一人ひとりの生活に直結しているものの、取り組む人が特別視されたり、慈善活動と捉えられる傾向があり、敷居を低くする必要を感じているからです。

一案を挙げれば、音楽や漫画、ファッションなどで活躍する身近なアーティスト達が平和への問題提起をしている作品がたくさんあります。それらの作品を改めて紹介していくプラットフォームを作り、関心への間口を広げていくことも出来るのではないのでしょうか。イベントを開催すれば、新たな層にアプローチする機会にも繋がります。この記事を書いている今、テレビでは松本零士さんの計報が流れてきました。彼もまた、「戦争の愚かさを若い人達に伝えることが漫画家の使命」との強い思いから、半世紀以上に渡って戦争漫画を描き続け、メッセージを発信し続けた方です。

かつてベトナム戦争下で巻き起こった若者達の反戦運動は、ビートルズの歌の力が中心となり、世界中に影響を及ぼしました。戦争に限らず対社会問題であっても、このようなムーブメントを起こせる可能性はあるのではないのでしょうか。フラットな立場のユネスコだからこそ牽引役となれるのではないかと... 最近、そう考えています。

📖 **おすすめの一冊**

『へいわってどんなこと?』
浜田桂子 / 童心社

日常生活を通じて本当の平和の姿はどんなことなのか、様々な視点から考え、平和の意味を問い返す絵本です。日本、中国、韓国の12人の絵本作家が3年以上の歳月をかけて実現した話題の一冊で、中国語や韓国語、ベトナム語にも翻訳されている他、ロシア、ウクライナの子ども達が将来憎しみ合うことがないようにと、両国の言葉による動画配信も行われました。

気象キャスターと考える地球温暖化



2023年2月5日(日)
阿佐谷地域区民センター 第1~3集会室

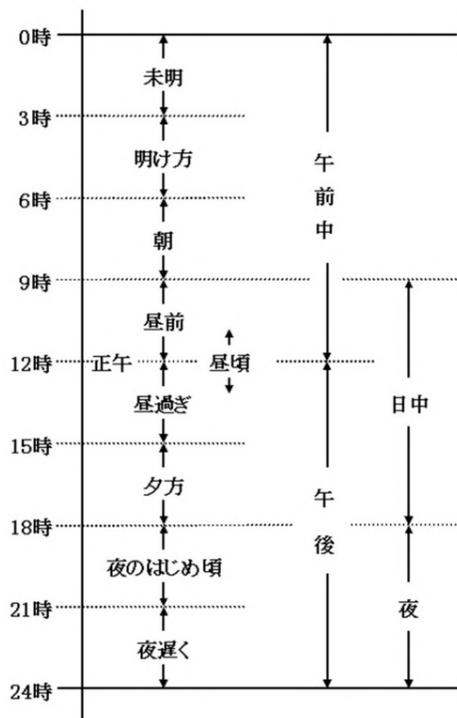
2022年度のユネスコのつどいは、SDGsを考える企画の一環で「気象キャスターと考える地球温暖化」という講演会でした。

講師の寺川さんは、NPO法人「気象キャスターネットワーク」の理事で、気象予報士・防災士。

講演会は、社会教育センター北川次男所長の挨拶で始まり、1時間15分間の講演、質疑応答15分間のプログラムでした。

寺川さんの講演は、分かり易く楽しいものでした。声も明るく明瞭で好評でした。

まずは、画像を多用した天気図クイズから始まりました。下の図は、寺川さんが使用されたものと同じ画像ではありませんが、時刻の区分も「へえ～」と思われました。



講師 寺川 奈津美 氏

気象予報士・防災士。NPO法人気象キャスターネットワーク理事。慶應義塾大学卒業。NHK鳥取放送局でキャスターを務める。気象予報士の資格を取得後、気象キャスターとして活動。NHK総合「ニュース7」やフジテレビ「直撃LIVE グッディ！」で天気コーナーを担当。

クイズは軽快で楽しいものでしたが、寺川さんの意図は深いものでした。

それは、例えば降雨情報の場合。どのぐらいの量の雨が、どのぐらいの時間降るか？

「情報を正しく読み取ってください」

「同じ情報でも、『これぐらいなら大丈夫』と『これなら用心しよう』という受け取り方で、大きな違いがあります。その違いが生死を分けます。ともかく用心してください」

「自分の命は自分で守ってください」

気象予報が命を守る一助になればという思いは繰り返し、お話の中にありました。

洪水は雨が止んでからくる恐ろしさや、土砂崩れからの避難の状況も例を出して話されました。

その思いは、参加者に届き、皆頷きながら聞き入っていました。共感がわいたのです。

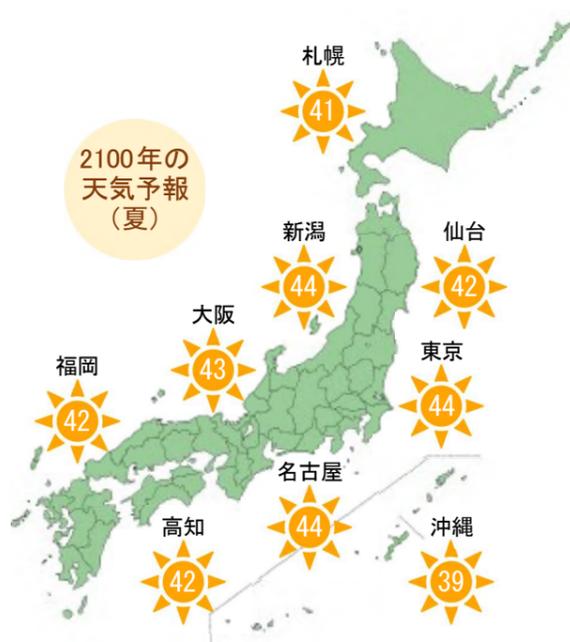
しかし、一同が、一番衝撃を受けた情報は!! 「2100年の天気予報」でした。

温暖化対策に失敗した地球は、4.8℃気温上昇してしまっ、夏は、全国的激暑。40℃越えの場所が日本で140か所。激暑日は60日間を超え、熱中症で亡くなる人は1万5千を超えるというものでした。

※この情報はネットでも閲覧可
<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/2100weather/>

沖縄が39℃というのはなぜかという質問も出ました。それは、海風の影響だという答えでした。一瞬、「海のそばに住もう」と思いましたが…。39℃が過ぎやすそうに思えるのはまやかしです。待っているのは、恐ろしい未来です。

気象予報の世界では、温暖化対策は、もう手遅れではないかと言われているという発言に参加者は全員驚愕!



このように、大変刺激的で実のある講演会でしたが、もっと広い視野でのお話を期待していたという意見もありました。

私も、南極の氷が解けてきていることへの不安と今日の南極観測船がその原因の調査を世界に先立って行っているという情報をTV番組で見たので、その質問をしてみました。でも、お話いただくには、時間が足りませんでした。何しろ15分間の質問時間でしたからね。

この問題は非常に重要な問題で関心も高いのでしょうか。第二弾を期待するという声もありました。

(辻 邦)

ユネスコ料理教室 災害時 何食べる？ どう作る？ 被災時に役立つポリ袋料理



講師
川村 みどり 氏
元母親クラブけやき会会長
2022年10月15日(土)
高井戸地域区民センター 料理室

被災した時、温かい料理を口にできれば、どんなにうれしいことでしょう。2022年度の料理教室は、災害時の料理の普及活動に取り組んでおられる川村みどりさんに、ポリ袋調理をご指導いただきました。白ご飯・ジュースご飯、ツナじゃが、五目豆、蒸しパン、ミネラルホットドリンク、おにぎりチャーハン。6品の食材をそれぞれポリ袋に入れ、一つの鍋で湯煎します。被災時には缶詰や乾物食品がとても重宝します。火を使わずにできる鯖缶カレーと乾物サラダも作り

ました。
ポリ袋調理のメリットは、貴重な水とガスを節約できること。複数の料理を一つの鍋で同時に作るのも短時間にもなります。鍋のお湯の使い回しもでき、洗い物が少なく後片付けも楽です。災害時だけではなく日常の献立に加えてみるのもいいですね。「知っている」と「やったことがある」とは大きな差があります。ポリ袋調理の調理法を楽しく学んで、美味しくいただくことができました。(水上あつ子)





2023年の新年会は、1月22日(日)に、杉並会館で開催され、久しぶりに集うことができました。城戸譲理事(青年部)の司会のもと、佐藤直子会長の挨拶に続いて、ご来賓の区長代理 関谷隆 杉並区生涯学習担当部長、白石高士 杉並区教育委員会教育長、林美紀子 顧問よりご挨拶をいただきました。また、本橋宏己 杉並区生涯学習推進課長、北川次男 杉並区社会教育センター所長、東京都ユネスコ連絡協議会の永野博副会長・宮崎冴子副会長・城所信英事務局次長もご出席い

ただき、共に新年を祝うことができました。永野博様の音頭によって乾杯をした後に、会食・懇談となり、その間、佐藤直子会長から、2022年度の杉ユ協の活動が映像で紹介されました。コロナ禍で苦慮しながらも、講演会・ユネスコ教室・中学生クラブなどの活動成果を、写真を見ながら振り返ることができました。現在の地球は、かつてないほどの多難な時代になっていますが、今年が平和なよい年になることを皆で願って新年会を終えました。(朝倉洋子)

平和のためのポスターコンクール表彰式

2022年12月7日(水) 杉並区役所

「あなたが思う戦争のない平和な世界」「平和の大切さ・戦争の悲惨さ」をテーマにしたポスターコンクールの表彰式が行われました。今回の応募数は前年度を上回る712点。戦場風景からインスピレーションを得て描いた花畑に赤い絵の具を散らした作品、祖母から話を聞いて描いた戦争の世界、ロシアとウクライナの戦争を「ロシアの絵本(大きなかぶ)とウクライナカラー」で描き、手を取り合おうというメッセージを込めた作品など、30点の優秀作品が表彰されました。(西野裕代)



ユネスコ科学教室 ドクターミーの恐竜教室 「足跡のいろいろ」

2023年1月15日(日) 高円寺学園

今年も「すぎなみサイエンスフェスタ」に出展いたしました。ドクターミーこと富田京一先生に講師をしていただくのも、フェスタでは6回目になります。今年のテーマは「足跡」。恐竜好きの親子が参加しました。動物の歩き方はその骨格により違いが生まれます。それをヒントに、恐竜が現生の動物のうちどの動物に近いかを考えます。観察のため、富田先生が研究用に飼育されている動物たちがゲストとして登場しました。なんとエリマキトカゲの「銀ちゃん」、イグアナの「ハヤシさん」、豹紋ガメの「ニャンコさん」です(ネーミングセンスも秀逸)。子供たち、親たちは目をまん丸にして見入っていました。講演中に出題された足跡の問題にも、即座にちびっ子博士ちゃんが答えたり、そしてマニアックなコメントを寄せたりと、ドクターミーも驚くばかりでした。(山田正)



10月9日(日)の午後、今年度第6回目の中学生クラブは小田急線代々木上原駅に集合しました。当日は中学生だけでなく、多くの保護者の方にも参加いただきました。見学先の東京ジャーミイ・ディヤナトルコ文化センター(以下、東京ジャーミイ)には、代々木上原駅から西へ10分ほどで到着。白を基調にした神聖なファサードに出迎えられ、背筋の伸びる思いで足を踏み入れました。一般の参加者も多く来場されていましたが、講堂の一室の小部屋では、信徒が活動している光景も見受けられました。私達はあくまで見学という立場ですが、信徒にとっては日々の生活の重要な拠点であることを実感した場面でした。施設のガイドから、イスラム教徒について、東京ジ

ジャーミイの設立、年に1度の断食についてのお話を伺いました。その後は礼拝堂に移動し、礼拝の様子も見学しました。断食の文化では、1か月の断食を経て、皆で分かち合って食事を取ることが重要だそうです。人への施し、つまり「利他的に生きること」を考える期間でもあり、ガイドは「社会的格差を縮める1か月」と表現されていました。世界中で格差問題へのあらゆるアプローチが起こる中、今耳にしていることがまさにその1つの形なのだと言った瞬間でした。見学を終えた今、あらゆる物事に多様性が現れることを理解すること、その個別の考え方を尊重することが、自分にとっての異文化・他者理解の手段であると感じています。(豊原有希・杉並区社会教育センター)



中学生クラブ
2022年11月~2023年2月

- 倫理の授業 1 2
11月12日(土)
- イヤーエンドパーティ 3 4
12月10日(土)
- ウクライナの話 5
1月14日(土)
- フィリピンの話 6 7
2月11日(土・祝)

会場はいずれも、高円寺中央会議室

報告

日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津 ～誰ひとり取り残さない平和で持続可能な未来を目指して～ 2022年11月26日(土) かずさアカデミアホール

第78回目となる全国大会が、3年ぶりに対面で開催されました。基調講演は、俳優の宇梶剛士さんによる「明日に向かって生きる」。アイヌ民族の人権活動家であるお母様との葛藤の日々、そして非行に走ってから立ち直り、俳優として歩き始めるまでの体験談には、困難に直面した時に立ち上がるためのヒントがたくさん込められていました。また、オーガニックシティ木更津市の取り組みや有識者によるパネルディスカッションを通して、世界の未来を変え、未来を創っていくのは私達自身であることを共に考える全国大会となりました。

閉会式では、2023年9月3日(日)に東京の青山学院大学で開催される「関東ブロック・ユネスコ活動研究会」の誘致を行いました。基調講演には、日本を代表するファッションデザイナーのコシノジュンコさんにご登壇いただきます。皆様、ぜひ会場でお会いしましょう！



お願い

書きそんじハガキ回収キャンペーン実施中

公共施設での回収 2023年3月20日(月)まで
※事務局(下記)への郵送は随時受け付けています



いつも皆様からご協力をいただきありがとうございます。おかげさまで多くのご寄付により、これまでに日本ユネスコ協会連盟を通して世界に538軒の寺子屋が建ち、約135万人が学ぶことができました。私達のキャンペーン活動は、杉並区との連携によって30年以上の間続いてきました。今年も杉並区役所入口、区内図書館、地域区民センター等に回収ボックスを設置しておりますので、引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

お知らせ

平和展「東京大空襲と今、ウクライナで起きていること」 杉並区主催/杉並ユネスコ協会協力

2023年2月3日(金)～3月1日(水) 杉並区立中央図書館
3月6日(月)～3月10日(金) 杉並区役所 区民ギャラリー

杉並区の「平和展」では、東京大空襲の関連パネルのほか、ウクライナ戦禍等の写真が区内に避難されているウクライナの方の声を添えて展示されています。過去の戦災を振り返るとともに、現在起きている惨禍に目を向けて、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えてみませんか。

杉並ユネスコ協会会報 148号 2023年3月7日発行

発行者 杉並ユネスコ協会 会長 佐藤直子

事務局 〒167-0043 東京都杉並区上荻 2-34-10 山田正方

TEL 090-6105-6633 FAX 03-3399-0339 E-mail suginami@unesco.or.jp

編集 杉並ユネスコ協会広報担当

口座 ゆうちょ銀行/記号 10040 番号 18974381 (ゆうちょ銀行間での振込)

店名 〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番 008 番号 1897438 (他行からの振込)

みずほ銀行/荻窪支店 普通口座 番号 4047995

ホームページ <http://suginami-unesco.org/>

募集

2023年度 ユネスコ中学生クラブ

2023年4月8日(土) 開始
原則、毎月第2土曜日
14:30～16:30

- 会場 4～9月 高円寺中央会議室
(杉並区高円寺南 2-32-5)
11月以降 セシオン杉並 (予定)
(杉並区梅里 1-22-32)
- 対象 区内在学・在住の中学生
- 定員 40名(申込順)
- 参加費 4,000円

※要申込。詳細は「広報すぎなみ」
3月1日号をご覧ください。

お願い

トルコ・シリア大地震 緊急支援

2023年5月31日(水)まで
(期間に変更になる可能性があります)

日本ユネスコ協会連盟を
通じた、両国での緊急支
援活動への募金に、ご協
力をお願いいたします。



<https://www.unesco.or.jp/newsitem/17317/>

活動予定

3月 March

- 3日(金) 理事会
- 11日(土) 中学生クラブ
(3年生を送る会)
- 27日(月)～ 青年部 広島スタディ
- 30日(木) ツアー

4月 April

- 4日(火)～ 国際中学生交歓会
- 5日(水)
- 7日(金) 理事会
- 8日(土) 中学生クラブ
(ユネスコ紹介と英会話)

5月 May

- 12日(金) 理事会
- 13日(土) 中学生クラブ
(英会話と国際理解)
- 27日(土) 2023年度杉並ユネスコ協会総会

6月 June

- 2日(金) 理事会
- 10日(土) 中学生クラブ
(英会話と国際理解)

杉並ユネスコ合唱団練習 ※印は予定

- 3月 9日(木) 3月 23日(木)
- 4月 13日(木) 4月 27日(木)
- 5月 11日(木) 5月 25日(木)
- 6月 8日(木)※ 6月 22日(木)※